

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士（医学）      氏名 中川直子

主査      教授      西村正治  
審査担当者 副査      教授      渥美達也  
副査      教授      有川二郎  
副査      教授      橋野 聡

### 学位論文題名

小児呼吸器感染症の病態と治療法の検討：ヒトボカウイルス感染症とインフルエンザ

(The pathogenesis and treatment of respiratory tract infections in children : Human bocavirus and influenza virus infections.)

この研究は、小児呼吸器感染症領域において新しく発見されたヒトボカウイルス（以下 HBoV と略す）感染症の病態解析と、既知の感染症としてインフルエンザを取り上げ 2 種類の吸入型ノイラミニダーゼ阻害薬（ザナミビルとラニナミビル）の治療効果の比較検討、という二つのテーマにより構成される研究である。

審査にあたり、渥美達也教授から、低い頻度で呼吸器感染症の患者から HBoV1-4 が検出されたことをどう考えるか、と質問があり、申請者は、HBoV1 に関しては呼吸器感染症患者からの報告が多く、呼吸器感染症に何らかの影響を及ぼしていると思われるが、他の呼吸器ウイルスとの同時検出が多いことも HBoV の特徴であり、直接的な病原性や、間接的に HBoV の存在が他のウイルスへ影響を及ぼしている可能性も考えられる、と回答した。橋野聡教授から、HBoV が検出された患者は特異的な症状があるのかとの質問があり、申請者は、HBoV が検出される患者は、発熱、咳嗽、鼻水、など非特異的な呼吸器感染症の症状であることを回答した。有川二郎教授は、インフルエンザ研究からのメッセージは、との質問があり、申請者は、低年齢児は熱が長く続く傾向があること、低年齢の児に吸入薬を処方する際にはザナミビルを処方するほうが適切であると思われた、と回答した。西村正治教授からは、どちらの研究も残念な点があり、ウイルスが検出され呼吸器感染症に関連があるかを調べる際に、急性期と回復期の症状のデータを比べることが大切で、症状のある時と回復した時との咽頭ぬぐい検体を調べることにしていたら、その検出の違いで呼吸器感染症との関係性をもっと強く証明できたのではないかと、との研究計画での改善点の指摘があった。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども合わせ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。